

鳥獣被害防止総合支援事業及び鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の評価報告(令和5年度報告)

沖縄県

1 被害防止計画の作成数、特徴等

沖縄県における被害防止計画を作成した市町村数は27で、その計画数は、沖縄本島南部7市町村と沖縄本島北部9市町村それぞれにおいて構成する協議会が作成した計画が2つと市町村が単独で作成した計画が21あるため、合計で23である(令和5年9月末現在)。そのうち目標年度を令和4年度に設定しているのは、6市町村(国頭村、大宜味村、今帰仁村、本部町、名護市、渡嘉敷村)、2つの広域協議会(沖縄本島北部地区、沖縄本島南部地区)である。  
 沖縄本島南部地区7市町村はシロガシラによる露地野菜の被害防止対策が共通課題であるため、沖縄本島南部地区野生鳥獣被害対策協議会においてシロガシラを対象鳥獣とした被害防止計画を作成している。また北部地区9市町村においても、平成26年5月に「沖縄本島北部地区野生鳥獣被害対策協議会」を立ち上げ、ハシブトガラスによる農作物への被害軽減を目的に、被害防止計画を作成している。その他地域については、加害鳥獣や栽培作物が異なるため、市町村単独で被害防止計画を作成している。

2 事業効果の発現状況

事業を実施している市町村においては、対象鳥獣の捕獲許可権限委譲を受け、市町村長の許可により、有害鳥獣の捕獲を行った。猟友会を含めた鳥獣被害対策実施隊を設置し、銃器や箱わなによる駆除を行うなど、効率的な体制により速やかに有害捕獲活動に取り組んだ。また、狩猟免許取得等の人材育成、被害状況の調査活動等今後の被害防止に向けた取り組みも行った。  
 沖縄本島北部地区及び八重山地区においては、イノシシによる農作物への被害が多発しており、被害が多いほ場を中心に侵入防止対策としてワイヤーメッシュ柵を整備した。被害防止の効果は大きく、受益ほ場については被害が無くなったが、未整備のほ場を中心に依然として被害が発生していることから、被害状況を確認し、引き続き、被害防止に有効な整備をしていく。併せて、イノシシを寄せ付けない対策(ほ場の残渣物の管理、ほ場周辺の環境整備)にも取り組む必要がある。

3 被害防止計画の目標達成状況

推進事業においては、沖縄本島北部地区野生鳥獣被害対策協議会、国頭村有害鳥獣対策協議会、大宜味村鳥獣被害防止対策協議会、今帰仁村有害鳥獣対策協議会、本部町有害鳥獣対策協議会、名護市鳥獣鳥獣被害対策協議会、宜野座村鳥獣被害防止対策協議会、渡嘉敷村鳥獣被害防止対策協議会、沖縄本島南部地区野生鳥獣被害対策協議会が、有害捕獲を中心に取り組んだ。半数以上の協議会が目標達成に至ったが、鳥獣類の生息数の増加等の要因もあり、一部は目標未達成となった。  
 整備事業においては、沖縄本島北部地区野生鳥獣被害対策協議会、国頭村有害鳥獣対策協議会、大宜味村鳥獣被害防止対策協議会、名護市鳥獣鳥獣被害対策協議会、宜野座村鳥獣被害防止対策協議会、渡嘉敷村鳥獣被害防止対策協議会がイノシシのワイヤーメッシュ柵を、国頭村(沖縄本島北部地区野生鳥獣被害対策協議会)がハシブトガラスの防鳥ネットを整備した(R2・3)。整備した被害防止施設の効果は大きく、受益ほ場については被害が無くなったものの、未整備ほ場を中心に依然として被害が発生していることもあり、名護市鳥獣鳥獣被害対策協議会のみ目標達成とはならなかった。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
沖縄県	沖縄県全域	R4	ハシブトガラス、クジャク、シロガシラ	新技術実証・普及活動	4,293,083円 ・鳥獣被害防止展示ほの設置 ・シロガシラ、ハシブトガラスの生息調査(沖縄本島北部地区)	-	-	-	低コスト防鳥施設等の資材を使った実証ほ設置による効果の検証を行い、効果的かつ低コストな対策指導の基礎資料とすることができた。 北部地区(名護市)で実施した展示ほについては、シロガシラの追い払いを目的とした防鳥テープ設置の実証を行った。防鳥ネットよりも簡易かつ低コストで設置でき生産者が取り組みやすいことから、被害防止効果の向上が期待できるとわかった。 また、八重山地区(石垣市名蔵)で実施した展示ほについては、イノシシの水田への侵入防止を目的とした電気柵の設置を行った。イノシシによる被害は見られず効果が得られたが、柵を飛び越えて侵入したクジャクによる食害が確認され、改良の必要があった。  効果的な被害防止対策を講じる為、沖縄本島北部地区におけるハシブトガラス、シロガシラの生息調査を行った。 行動パターンや詳細な生息地域などを把握できたことにより、効率的な被害対策の計画につながる。	-	-	-	-	-	-	今回の実証ほ設置により効果的かつ低コストな対策指導の基礎資料とすることができたので、鳥獣被害軽減対策指導として普及していきたい。  沖縄県における野生鳥獣による被害は、令和2年度が77,502千円、令和3年度が51,669千円、令和4年度が47,538千円と減少傾向にある。  引き続き有害捕獲活動を実施し、侵入防止柵等の整備や、地域のニーズに合わせた被害防止対策の普及推進により、さらに被害軽減を図っていく。	-	-
沖縄本島北部地区野生鳥獣被害対策協議会	国頭村 大宜味村 東村 名護市 今帰仁村 本部町 恩納村 宜野座村 金武町	R2	ハシブトガラス	推進事業 ②有害捕獲 ③被害防除	R2 13,322,355円 ・有害捕獲活動 ・追い払い活動 ・免許取得のための講習会 ・捕獲箱設置管理	-	R2	100%	体制整備:実績検討会の開催により情報共有効果が増した。  被害防止:定期的に広域活動を行ったことで、カラスによるバイン、柑橘などの被害低減が図られた。  捕獲状況:被害防止計画で令和2～4年度の毎年度15,000羽の目標捕獲羽数であったが、3か年の平均は10,110羽と目標数値に至らなかった。令和2年度は11,102羽、令和3年度は11,416羽、令和4年度は7,811羽であったが、被害低減に大きく貢献した。	14,647千円	7,541千円	536%	1780a	834a	578%	令和2～4年度において、カラスの捕獲数が平均10,110羽に対し、令和4年度は7,811羽(令和3年度11,416羽)と実施隊の活動報告では減少となった。 その明細として、広域活動561名・1,530羽(令和3年度603名・2,105羽)、有害捕獲活動571名・4,247羽(令和3年度619名・6,399羽)、捕獲箱2,034羽(令和3年度2,912羽)となっている。 また、実施隊がラジカセ等を活用し、追い払い及び捕獲を行ったことにより、被害金額の軽減に大きく貢献できた。  令和2～4年度において、カラスの捕獲数が平均10,110羽に対し、令和4年度は7,811羽(令和3年度11,416羽)と実施隊の活動報告では減少となった。被害防止策と捕獲活動、追い払い活動等を着実に遂行し、実施状況率100%と、複数の対策による相乗効果が出ていると評価される。 捕獲数は、令和2、3年度において各年10,000羽以上となっているが、令和4年度は約8,000羽程度となっている。令和2～4年度各年度の活動人数に大きな違いはない為、継続的な活動の効果による生息数の減少と考えられる。 以上ことから、事業の実施状況、成果は達成できているものと評価する。 これらの対策の手を緩めると、生息数が容易に増加することが予想される為、今後も被害状況と捕獲数の増減を注視し、情報を共有しながら事業を進めていくことが望ましい。 (農産物野生鳥獣被害対策アドバイザー 上原 辰夫)	沖縄本島北部地区においてはハシブトガラスによる被害が甚大であったことから、平成26年度に沖縄本島北部9市町村による広域協議会が設立された。以前は市町村単位の取組みであったが、設立後は9市町村で連携した有害捕獲活動や、一斉追い払い活動を行っている。これらの取組みの結果、捕獲数は目標値に至らなかったものの、被害面積、被害金額ともに目標を達成することができた。 被害は減少しているものの、依然としてハシブトガラスの被害は大きく、引き続き、銃器による捕獲活動と並行して箱わなによる有害捕獲を実施し、バインアップルやカンキツ類の安価な防鳥対策等の普及を進め、さらに被害減少に努めていく必要がある。	
		R3			R3		100%											
		R4			R4		100%											

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
国頭村有害鳥獣対策協議会	国頭村	R2	イノシシ オリオオコウモリ	推進事業 ②有害捕獲 ⑤重点捕獲 対策強化  整備事業 ①鳥獣被害 防止施設 (侵入防止 柵の設置)	R2 推進事業 2,000,000円 ・駆除隊の活動費  整備事業 3,715,800円 ・ワイヤーメッシュ柵 3,066m	国頭村有害鳥獣対策協議会	R2	100%	令和4年度において、推進事業ではイノシシの捕獲数が453頭と、前年(260頭)を大きく上回る捕獲実績を上げることができ、整備事業では、ワイヤーメッシュを用いた侵入防止柵を6,066m整備した。 その結果、被害金額目標値(2,715,135円)には届かなかったが、設定した目標値に近い実績値(2,763,167円)となり、目標達成率は91%となった。	2,720千円	2,763千円	91%	-	-	-	イノシシの捕獲数は、近年増加傾向にあり、令和3年度の実績は260頭、令和4年度は453頭をあげている。これらの実績があげられたのは、実施隊による捕獲活動を継続してきたことによるものである。 イノシシによる農作物の被害については、猪垣(ワイヤーメッシュ侵入防止柵)の整備を行ったほ場においては著しい被害の軽減が見られたが、設置が行われていないほ場においては変わらず被害が発生している為、継続的に猪垣整備を行い、被害の軽減に努めるとともに、農家にも自主的な被害防除への取り組みを促していきたい。	実施隊による捕獲活動及び猪垣(ワイヤーメッシュ侵入防止柵)の整備によって、有害鳥獣による農作物への被害は軽減されてきていると感じている。 しかし、ワイヤーメッシュ侵入防止柵が整備されていないほ場においては捕獲活動を実施していても有害鳥獣による被害が発生している状況にあるため、村内農家の生産意欲向上のためにも継続的な被害防止対策に取り組んでいただきたい。 (国頭村農業委員 仲宗根 隆)	イノシシの生息地が広域にわたる国頭村は、侵入防止柵や銃器による捕獲活動を継続的に実施しており、令和4年度は被害金額が2,763,167円、達成率は91%と目標にわずかとばななかったが、年々減少傾向にある。 事業の効果が現れ農作物被害を軽減させているが、侵入防止柵が未整備ほ場でのイノシシによる被害が依然として多く発生している。 今後も事業を活用し、捕獲活動の継続、被害状況を確認のもと侵入防止柵の整備を進めていく必要がある。
		R3			R3 推進事業 2,300,000円 ・駆除隊の活動費  整備事業 7,906,800円 ・ワイヤーメッシュ柵 5,232m		R3	100%										
		R4			R4 推進事業 2,000,000円 ・駆除隊の活動費  整備事業 14,586,000円 ・ワイヤーメッシュ柵 6,066m		R4	100%										
国頭村(沖縄本島北部地区野生鳥獣被害対策協議会)	国頭村	R2	ハシブトガラス	整備事業 ①鳥獣被害 防止施設 (防鳥ネット 施設の設置)	R2 3,877,500円 ・パイプ支柱型 網掛け施設 70a	国頭村	R2	100%	令和2、3年度において、かんきつ類を栽培している圃場を対象に整備事業を活用し、防鳥ネットを合計13施設(1施設10a)整備した。本事業で整備を行った圃場においては、かんきつ類への鳥類による被害の著しい減少がみられた。 本村においての鳥類によるかんきつ類への被害額は、計画当初の平成30年度2,312,372円に対し、令和4年度は1,216,294円となっており、1,000,000円以上減と大幅に減少していることから、本事業による被害軽減効果が大きいものと考えられる。	14,647千円	7,541千円	540%	17.8ha	8.3ha	580%	防鳥ネット施設の整備を行った圃場での鳥類によるかんきつ類への被害は、著しい減少がみられた。また、沖縄県北部地域野生鳥獣被害対策協議会として定期的に実施している広域一斉駆除、本村実施隊による駆除活動、カラス捕獲箱の設置等の被害防止活動の効果が被害額の減少という形で現れていると考えられる。 しかし、駆除対象でない鳥獣からの被害がみられている現状もあり、今後も未整備圃場への防鳥ネットの整備を重点的に行っていきたい。	防鳥ネット施設を整備した圃場については、被害が大きく減少しているため、未整備の圃場についても整備を進めていただきたい。 また、一斉駆除活動及びカラス箱等による捕獲活動を継続して行うことで、カラスの個体数は減少した印象はあるが、かんきつを含む様々な農作物へのカラスを含めた鳥類の被害が発生しているため、今後も駆除活動及び防鳥ネット施設の整備を継続的に行っていただきたい。 (国頭村農業委員 仲宗根 隆)	沖縄本島北部地区においてはハシブトガラスによる被害が基大であったことから、平成26年度に沖縄本島北部9市町村による広域協議会が設立された。以前は市町村単位の取組みであったが、設立後は9市町村で連携した有害捕獲活動や、一斉追い払い活動を行っている。 国頭村においては、被害金額、被害面積ともに目標達成はできているが、特に柑橘類の圃場において未だ被害が顕著である為、引き続き有害捕獲活動と並行して防鳥ネット施設等の整備を進めていく必要がある。
		R3			R3 3,767,293円 ・パイプ支柱型 網掛け施設 60a		R3	100%										
		R4					R4											
大宜味村鳥獣被害防止対策協議会	大宜味村	R2	イノシシ ヒヨドリ シロガシラ オリオオコウモリ	推進事業 ②有害捕獲 ③被害防除  整備事業 ①鳥獣被害 防止施設 (侵入防止 柵の設置)	R2 推進事業 879,000円 ・駆除隊の活動費  整備事業 7,383,200円 ・ワイヤーメッシュ柵 6,192m	大宜味村鳥獣被害対策協議会	R2	100%	整備事業ではイノシシ侵入防止柵を被害のあった圃場に設置することにより、イノシシによる被害がなくなったが、その影響により周辺でイノシシ侵入防止柵を設置していない圃場については被害が出てきている状況で継続して設置を行う。 推進事業においては、捕獲数が増加傾向であり、引き続き効果的な活動に取り組む。	2,702千円	583千円	413%	0.52ha	0.1ha	423%	整備事業にてイノシシ侵入防止柵を設置した圃場の被害はなくなった。 今後も整備事業、推進事業を活用してさらなる被害軽減に努めたい。	大宜味村はイノシシによる農作物被害が長年の悩みでありました。現在も変わらずイノシシの姿が多く目撃され、近年では民家近くでの出没も多くなっており人への被害が発生しないかと心配しているところです。 本事業においてイノシシ侵入防止柵の整備は農家にとって被害防止における効果的な事業であり、整備済圃場においてはイノシシによる被害がなくなり、受益者の生産意欲や所得の向上が図られている。 今後は未整備圃場への設置を早急に実施してほしい、特に山間地域には多くのイノシシが目撃されている事から被害拡大が懸念される。また、オリオオコウモリや鳥類への対策として防鳥ネット等の検討を行い、村内農家が鳥獣被害について苦慮することのない栽培環境の支援をよろしく願います。 (大宜味村農業委員会 会長 山内 典貴)	これまでの有害捕獲活動、ワイヤーメッシュ柵の整備の成果があり、イノシシ、オリオオコウモリ共に被害金額及び面積が減少してきている。 イノシシについては、侵入防止柵の未整備ほ場において被害が発生し続けていることから、引き続き整備を行っていく必要がある。 オオコウモリについては、保護対象であり有害捕獲が困難な為、ヒヨドリ、シロガシラ、ハシブトガラス等による被害防止対策を含めた防鳥施設の整備や安価な防鳥対策を進めていく必要がある。
		R3			R3 推進事業 840,000円 ・駆除隊の活動費  整備事業 5,052,300円 ・ワイヤーメッシュ柵 2,448m		R3	100%										
		R4			R4 推進事業 603,000円 ・駆除隊の活動費  整備事業 2,479,613円 ・ワイヤーメッシュ柵 1,098m		R4	100%										

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価	
										被害金額			被害面積						
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率				
今帰仁村有害鳥獣対策協議会	今帰仁村	R2	シロガシラ マンガース	推進事業 ・緊急捕獲活動支援事業 ②有害捕獲	R2	今帰仁村有害鳥獣対策協議会	R2	100%	今帰仁村有害鳥獣対策協議会では、平成20年度から本事業を実施し、カラス、シロガシラの捕獲箱の導入や銃器による捕獲活動を行っている。平成23年度からは、新たにマンガースを対象鳥獣として追加し、捕獲器を使った駆除を開始した。 令和2年度から令和4年度までの3年間のマンガースの捕獲数は1,460頭であった。シロガシラは令和2年度に5羽を捕獲してから捕獲実績はない。しかし、近年の個体の確認件数及び被害は減少していない。 令和4年度の被害金額は700,000円で達成率は0%となっており、目標に及ばなかった。	388千円	700千円	0% (-221%)	-	-	-	令和2年度から令和4年度までの3年間のマンガースの捕獲数は1,460頭であった。シロガシラは令和2年度に5羽を捕獲してから捕獲実績はない。捕獲実績は減少傾向にあるが、個体の確認件数及び被害は減少していない。 令和4年度の被害金額が700,000円で達成率が0%であった為、関係機関や農家とより連携を深め、捕獲箱の設置場所の検討や見回り活動の強化を行い、被害の軽減に向け対策、活動を続ける必要がある。	実施した事業内容を見ると、令和2年度から令和4年度は、マンガースの被害による駆除事業で稼働率は100%となっている。しかし、被害金額は目標値の388,080円に対し実績値が700,000円となり、達成状況は0%で未達成となっている。 被害金額、被害状況を分析し、シロガシラによる被害か、マンガースによる被害か、または、対象鳥獣以外のカラス、イノシシ等による被害かを把握し、次年度以降の対策を検討、講じる事が望ましい。 (沖縄環境経済研究所:上原)	マンガースにおいては、捕獲頭数を見ると事業の効果を感じられるが、被害金額において目標を達成できていない。 被害状況を改めて確認し、農作物への影響の軽減に向け、効率的な対策検討及び活動に務めていく必要がある。	
		R3			R3														100%
		R4			R4														100%
本部町有害鳥獣対策協議会	本部町	R2	マンガース シロガシラ オコウモリ ドバト	推進事業 ・緊急捕獲活動支援事業 ②有害捕獲	R2	-	R2	100%	マンガースの捕獲を行い、農家の所得向上を図った。令和2年度の捕獲数は829頭、令和3年度は632頭、令和4年度は1,192頭であり、合計で2,653頭を捕獲した。 令和4年度のマンガース捕獲数は1,000頭であるのに対し、捕獲実績は1,192頭と計画数を上回った。令和2・3年度と比べると捕獲数が増加しており、繁殖や被害を防ぐためにも捕獲活動は今後も継続していきたい。	279千円	46千円	575%	-	-	-	被害防止計画での被害額の目標は27.9万円に対し、令和4年度の実績値は4.6万円であり、目標が達成できた。 本町の中でも果樹への被害が多く発生していた伊豆味地区において、出荷前に重点的な捕獲を行うなど、地域の実情に合わせた活動が行われていることから被害の増加を食い止めていると考えられる。また間断ない駆除の継続と捕獲罠の増設により、今後も被害の防止に努めてもらいたい。 (沖縄県猟友会 北部地区事務局長 兼城 賢志)	令和4年度においてマンガースの捕獲頭数は大幅に増加し、被害金額が減少、目標達成率となった。 ただし、被害防止計画の対象外の鳥獣による被害が報告されているので、防止計画や対策を見直す必要がある。		
		R3			R3													100%	
		R4			R4													100%	
名護市鳥獣被害対策協議会	名護市	R2	イノシシ マンガース シロガシラ オコウモリ ヒヨドリ	推進事業 ・緊急捕獲活動支援事業 整備事業 ①鳥獣被害防止施設(侵入防止柵の設置)	R2	名護市鳥獣被害対策協議会	R2	100%	名護市鳥獣被害対策協議会では、令和2年度～令和4年度においてイノシシ侵入防止柵の整備や銃器およびわなによる有害駆除活動を実施した。 平成26年度からイノシシ侵入防止柵の整備を行い、圃場への被害防止に効果がみられた。また、イノシシの行動範囲が制限されたことにより、銃器およびわなによる有害駆除も効率よく行え、受益農家の営農意欲向上など被害防止に効果がみられた。 有害駆除活動の実績として令和2年度においては79頭(捕獲確認ベース97頭)、令和3年度においては91頭(捕獲確認ベース122頭)、令和4年度においては74頭(捕獲確認ベース107頭)となった。 本事業で導入したイノシシ捕獲箱、イノシシ侵入防止柵を活用し、また銃器およびわなによる有害駆除活動を実施し、高い捕獲実績となっているが、被害金額、被害面積ともに未達成となっている。今後はイノシシの被害が多い地域を中心に被害対策を実施していくことで改善を図りたい。	791千円	3,158千円	0% (-2,590%)	0.15ha	6.98ha	0% (-34.050%)	イノシシにおいては、基準年の被害面積0.174ha、被害金額878,740円に対し令和4年度の被害面積6.98ha、被害金額3,158,239円、達成率は被害金額0%(-2,590%)、被害面積0%(-34.050%)となっており、改善が必要である。原因としては、イノシシの増加とイノシシの侵入防止柵の整備を行っていない圃場への被害の増加が考えられる。今後は被害が大きい地域の対策強化を図りたい。 久志地区では、以前よりイノシシ等による、さとうきび、パイン、かぼちゃ等の食被害が多く、これまでも被害防止の対策を行ってききましたが、被害の大きな圃場では作付をやめる農家もおりました。 平成26年度より始まったイノシシの侵入防止柵の設置により、整備された圃場では被害減少により収穫量の増加はもちろんのこと、受益農家の営農意欲にもつながっております。 今後の課題としては、現在3農家以上の申請により行っています、設置基準を1農家でも設置が可能な制度の確立や、イノシシ被害により作付をやめた圃場も対象とすることが必要かと思えます。 (名護市・農業委員 比嘉 清隆)	侵入防止柵の設置及び銃器による捕獲活動を継続的に実施しているが、被害金額、被害面積ともに目標未達成となった。 特に、イノシシによる被害の面積の増加が著しいので、受益農家の整理を行い、侵入防止柵の整備を早急に増加させる必要がある。		
		R3			R3													100%	
		R4			R4													100%	

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価	
										被害金額			被害面積						
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率				
宜野座村鳥獣被害防止対策協議会	宜野座村	H28	イノシシ	推進事業 ②有害捕獲 ③被害防除 整備事業 ①鳥獣被害防止施設	H28 推進事業 480,000円 ・実施隊による捕獲活動 ・被害状況確認調査 整備事業 3,477,600円 ・ワイヤーメッシュ柵 2,648m	宜野座村鳥獣被害防止対策協議会	H28	100%	●推進事業等による駆除活動や調査の強化、また整備事業を活用したワイヤーメッシュ柵による猪垣設置で被害圃場数は平成28年度から考えて減少傾向となっている。 捕獲状況：H28→44頭 H29→23頭 H30→55頭 R1→74頭 R2→62頭 R3→70頭 R4→37頭 整備面積：H28→6.2ha H29→1.7ha H30→3.1ha R1→2.9ha R2→2.5ha R3→4.6ha R4→4.4ha 被害圃場：H28→34件 H29→31件 H30→26件 R1→22件 R2→20件 R3→21件 R4→12件 ●被害防止計画に対して、被害面積・被害金額ともに目標を達成できた。また、ワイヤーメッシュ未整備ほ場での被害が目立っているため、今後ワイヤーメッシュ未整備ほ場での対策も課題である。 H28～H30年度の被害防止計画は、H27年度の現状値を基に策定し、H27年度のイノシシによる被害状況はここ2～3年と比較すると非常に低い数値である。当時の目標数値で現状の被害を評価するとR1年度未達となり、目標年度を1年延長したが、R2年度も被害金額の達成率517%、被害面積の達成率275%、さらに目標年度を1年延長したがR3年度も被害金額の達成率234%、被害面積の達成率892%となり未達となった。 そのため、R3年度に目標値の見直しを行い、以下のとおりを設定し直した。 被害金額：330,000円→594,000円(基準値660,000円に対し50%→10%減) 被害面積：35.7a→57.6a(基準値64aに対し50%→10%減) その結果、R4年度の被害金額の達成率は217%、被害面積の達成率は516%となっている。 目標を達成する事ができたが、上記にも記載したように被害は発生しているため、引き続きイノシシを寄せ付けない対策、農業委員会や関係機関との連携を図り、耕作放棄地の解消に努め被害が減少するように徹底する。	594千円	517千円	217%	57.6a	31a	516%	被害面積、被害金額は共に減少しており、目標は達成できた。 要因としては、イノシシの目撃情報なども少なく出没が減少しており被害が減少した。 しかし、依然として被害が発生しているため、引き続き、実施隊やほ場で営農する農家との連携を強化し、イノシシを寄せ付けない対策(残渣物の管理、ほ場周辺の環境対策)を徹底する。 また、被害の多いワイヤーメッシュ柵未整備ほ場では、村単独予算で購入した捕獲箱を活用する等、対策を講じる。 実施事業でワイヤーメッシュによる猪垣設置も効果を発揮していることが伺える。被害を軽減するために農家との連携をとりながら、イノシシを寄せ付けない対策も効果が期待できる。 当初、H27年を基準値にしていたが、H27年度は近年に比較して被害状況が乖離していたこともあり、R3年度に見直しを行っている。イノシシの生息数、被害状況等はその時の自然状況に左右されることも多いことから乖離が大きい場合は適宜見直し設定することは妥当であるとする。 目標値は被害金額、被害面積も減少し達成できていること、ワイヤーメッシュの未整備ほ場での被害が大きいことが課題として認識し、今後の対策に活かすことを検討している。 以上のことから事業の実施状況、成果は達成できているものと評価する。 (沖縄環境経済研究所 上原 辰夫)	被害金額・面積の目標値見直し再設定はあったものの、令和4年度はそれを大きく上回る実績をあげたことは、事業導入の効果があつたと評価できる。 目標を達成することはできたが、未だ被害は発生しており、特に、侵入防止柵未設置の圃場では被害が大きいことから、捕獲活動や施設整備を継続し、被害軽減に努める必要がある。		
		H29								H29	100%	594千円	517千円	217%	57.6a			31a	516%
		H30								H30	100%								
		R1								R1	100%								
		R2								R2	100%								
R3	R3	100%																	
R4	R4	100%																	



事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
渡嘉敷村鳥獣被害防止対策協議会	渡嘉敷村	R2	イノシシ ハシブト ガラス	推進事業 ②有害捕獲 ③被害防除  整備事業 ①鳥獣被害 防止施設	R2 推進事業 1,036,000 円 ・駆除活動 ・被害状況調査  整備事業 1,555,950円 ・イノシシ被害防 止対策金網柵 1,136m	渡嘉敷村 鳥獣被害 防止対策 協議会	R2	100%	箱罠によるイノシシの捕獲により、ピーク時に比べて人里での目撃情報が減っており、着実に個体数の減少につながっている。また、侵入防止柵の設置により、田畑への侵入など直接的な被害の防止につながっている。当該計画の対象期間において、目標値を155,010円と定めている。令和4年度の被害値は0円となっており、達成率は100%となっている。	155千円	0千円	100% (333%)	-	-	-	イノシシの捕獲については年間150頭を目標として活動しており、令和2年度が86頭、3年度が154頭、4年度が64頭となっている。実働としては、実施隊員がイノシシの活動ルートに合わせて罠を移動させる等の効率的な捕獲に向けた配置を実施している。3年度はその効果が顕著に表れたのだと考える。このまま確実に捕獲を続ける事で繁殖を防ぎ、根絶に向けて活動を継続していく。 今後有効な罠や捕獲方法の検討、実施隊員の増員に向けた活動を実施していきたい。	実施隊員の捕獲活動は、農地や農作物への被害低減もそうだが、農地周辺の農道等の安全確保にもつながっている。現在も情報が寄せられており、高めなので、今後も活動を継続し捕獲数を維持するためにも人員の確保に励んで頂ければと思う。 (渡嘉敷村農業委員会 委員 高尾 渉)	侵入防止柵の設置及び箱罠による捕獲活動を実施した結果、目標達成となった。 イノシシの目撃情報は減少傾向にあるが、現在も情報が寄せられており、農作物への被害を及ぼすことが考えられる為、捕獲活動等の対策を継続していく必要がある。 また、慶良間諸島におけるイノシシの根絶を目指して取組を強化している指定管理鳥獣捕獲等事業とも連携をする。
		R3			R3		100%											
		R4			R4		100%											
沖縄本島南部地区野生鳥獣被害対策協議会	那覇市 豊見城市 糸満市 南城市 南風原町 八重瀬町 与那原町	R2	シロガシラ ハシブト ガラス	推進事業 ①推進体制の整備 ②有害捕獲 ③被害防除	R2 889,585円 ・実施班会議の開催 ・狩猟免許取得 ・被害状況調査	沖縄本島 南部地区 野生鳥獣 被害対策 協議会	R2	100%	捕獲に関する取り組みとして、被害発生時期の12～3月の期間に調査員を雇用し、捕獲箱設置・ほ場の巡回・駆除を行うほか、被害防止軽減指導を行っている。狩猟免許については那覇市で1名(網猟、わな猟)取得があった。令和4年度はシロガシラを191羽捕獲。シロガシラの捕獲数は減少傾向にある。被害金額については目標値1,867万円に対し実績値65万円、また、被害面積については目標値55haに対し実績値0.26haと、被害を大幅に減少させ目標を達成した。	18,670千円	656千円	970%	55ha	0.26ha	1011%	シロガシラの農作物被害金額については65万円となっており、平成30年度現状値の2,005万円を下回る被害額となった。農作物の被害面積については0.26haとなっており、平成30年度現状値の61haを下回る被害面積となった。	被害防止計画の目標は、被害金額が基準年の2,005万円に対し65万円、被害面積は61haに対し0.26haといずれも激減している。R4年度のシロガシラ捕獲は191羽であるが、この事業の成果だけでこれだけの被害の減少があるとは思えない。各農家のハウス栽培対策、栽培種の工夫などの相乗効果も考えられるが、大きな要因はシロガシラを取り巻く自然要因で生息数が減少したことと推測される。また、野菜以外のシロガシラの餌源が、天候の影響が少なく豊富だったことが考えられ、農作物へ被害が及ばなかったとも推測される。今後もシロガシラの生息数の増減等に留意しながら対策は着実に実施、継続することを期待する。 (株式会社沖縄環境経済研究所 上原辰夫)	被害金額、面積とも目標値から大幅に減少させることができ、事業の効果があつたと考えられる。ただし、被害が完全になつたわけではないので、引き続き捕獲活動等に努めていただきたい。
		R3			R3		100%											
		R4			R4		100%											

2: 都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。

3: 事業効果は記載例を参考とし、獣種等ごとに事業実施前と事業実施後の定量的な比較ができるよう時間軸を明確に記載の上、その効果を詳細に記載すること。整備事業を行った場合、捕獲効率の向上にどのように寄与したかも必ず記載すること。

4: 「事業実施主体の評価」の欄には、その効果に対する考察や経営状況も詳細に記載すること。

5: 鳥獣被害防止施設の整備を行った場合、侵入防止柵設置後のほ場ごとの鳥獣被害の状況、侵入防止柵の設置及び維持管理の状況について、地区名、侵入防止柵の種類・設置距離、事業費、国費、被害金額、被害面積、被害量、被害が生じた場合の要因と対応策、設置に係る指導内容、維持管理方法、維持管理状況、都道府県における点検・指導状況等を様式に具体的に記載し、添付すること。

## 5 都道府県による総合的評価

<p>被害防止計画において令和4年度を目標年度に設定している市町村及び広域協議会のうち、鳥獣被害防止総合対策交付金を実施している沖縄本島北部地区野生鳥獣被害対策協議会、国頭村有害鳥獣対策協議会、国頭村、大宜味村鳥獣被害防止対策協議会、今帰仁村有害鳥獣対策協議会、本部町有害鳥獣対策協議会、名護市鳥獣被害対策協議会、渡嘉敷村鳥獣被害防止対策協議会、沖縄本島南部地区野生鳥獣被害対策協議会の9ヵ所に、昨年度目標が未達成であった宜野座村鳥獣被害防止対策協議会を加え計10ヵ所が評価対象となっている。</p> <p>今帰仁村有害鳥獣対策協議会、本部町有害鳥獣対策協議会、名護市鳥獣被害対策協議会が目標達成に至らなかったことから、改善計画の策定協議を行い、被害防止対策を推進していく必要がある。</p> <p>目標達成にはならなかったものの、すべての地区において事業計画に基づいて鋭意努力し取り組んでおり、被害の大きいハシブトガラス、イノシシについては有害捕獲、侵入防止柵の整備等の本事業の取組みによる被害抑制効果は十分にあったと考えられ、継続的な実施が重要と考える。沖縄県全体の被害金額は、平成24年度の2億1千万円をピークに徐々に減少傾向となっており、令和4年度においては47,538千円となっていることから、これまでの対策、事業導入の成果が発揮されている。</p> <p>地域により対象鳥獣や被害状況、課題が異なる為、それぞれニーズにあった対策を進め今後もサポートしていく。より効果的な被害防止対策の実施方法を検討し、被害状況調査による被害実態を踏まえた上で被害防止計画を策定、さらなる被害軽減につなげていくよう努めていく必要がある。</p>
---